
介護と医療の連携推進業務委託 報告書

平成 30 年 3 月
日野市健康福祉部高齢福祉課

目 次

1	業務の概要	1
1-1	業務の目的	1
1-2	業務の進め方	1
2	日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催	2
2-1	会議の概要	2
2-2	各回の内容	3
3	多職種協働による連携推進勉強会・研修会の運営支援	7
3-1	勉強会・研修会の開催状況	7
3-2	各会の内容	8
4	地域住民への普及啓発の実施支援	12
4-1	普及啓発の実施状況	12
4-2	イベントの開催結果	13
5	国、東京都・他自治体の取組み等の情報提供	18
5-1	調査の実施状況	18
5-2	シンポジウムの開催例	19
5-3	在宅療養ハンドブック・ガイドブックの作成例	21
6	次年度の取組方針の検討	30
6-1	検討部会の開催	30
6-2	多職種協働による連携推進勉強会・研修会の開催	30
6-3	地域住民への普及啓発の実施	31
6-4	事業の実施体制	31
6-5	国、東京都・他自治体の取組等の調査	31

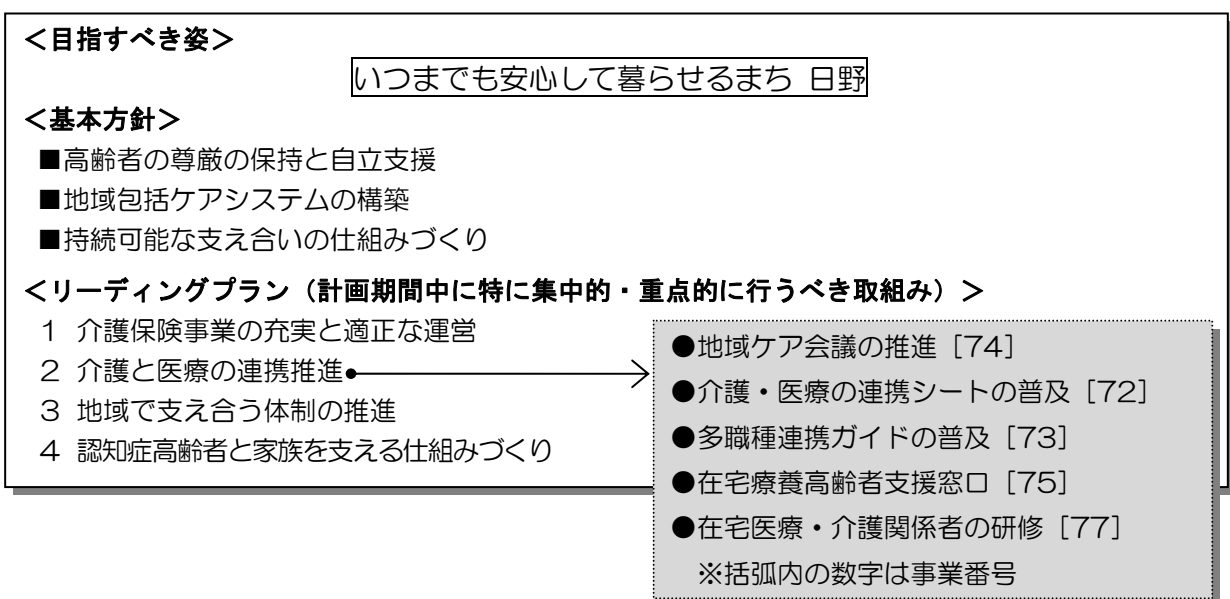
1 業務の概要

1-1 業務の目的

本業務は、日野市在宅高齢者療養推進協議会（以下、「推進協議会」）、日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会（以下、「検討部会」）及びその他在宅高齢者の療養環境整備支援に係る業務について、円滑かつ効率的、効果的に運営することを目的とする。

「推進協議会」及び「検討部会」は、高齢者が安心して在宅療養を受けられるよう、介護、福祉、医療、保健の各分野のサービス提供主体間における円滑かつ有機的な連携体制の構築を推進することを目的に設置されたものであり、この内容は第2期日野市高齢者福祉総合計画（平成27年3月）の中でリーディングプランの柱の1つに位置づけられた「介護と医療の連携推進」に合致するものである。

▼第2期日野市高齢者福祉総合計画（平成27年度～平成29年度）における位置づけ



1-2 業務の進め方

本業務は、前年度からの大きな検討テーマとなっていた、第2段階（顔の見える関係づくりの次）の勉強会のブラッシュアップと在宅療養に関する地域住民への普及啓発について、「検討部会」を中心に企画・実行することを目標に進めた。「検討部会」に対しては、参考となる国、東京都・他自治体の取り組み等の情報提供もあわせて行っている。

また、今年度は上記勉強会に参加したいという職種が出てきたことから、現在の範囲を拡大するか否かを含めた勉強会・研修会のあり方について再検討を行っている。

前年度の検討テーマの1つとなっていた在宅医療・介護連携支援センターについては、検討が実務的な調整を含む具体的な内容に入ってきたため、「検討部会」においては検討を行わず、事務局による進捗報告を確認することとした。

2 日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催

2-1 会議の概要

「検討部会」は、在宅療養環境の向上及び介護と医療の連携体制の構築等に関する取組について具体的な検討を進めるために、「推進協議会」のもとに設置された会議体である。平成25年度より、介護と医療の連携に特に関わりの大きい「日野市医師会」「日野市歯科医会」「日野市薬剤師会」「日野市訪問看護ステーション協議会」「日野市立病院」「日野市在宅介護事業者協議会」「ひのケアマネ協議会」「地域包括支援センター」の8団体の代表者と事務局である日野市高齢福祉課を構成員に定期的に活動している。

平成29年度は、前年度に引き続いて第2段階の勉強会（第3章）のブラッシュアップと、地域住民への普及啓発の2つを主要テーマに検討を進めることとした。

会議の開催日程と主要な検討テーマは以下の通り。

▼「検討部会」等の開催日程と主要な検討テーマ

回数	日程	主要な検討テーマ
第1回	平成29年6月6日	○平成29年度の検討スケジュールについて ○第2段階勉強会（第2回勉強会）の開催方針について ○市民啓発イベントの開催方針について ○勉強会・研修会のあり方について
第2回	平成29年8月15日	○第2段階勉強会の開催方針（第4回勉強会）及び開催内容（第2回勉強会）について ○市民啓発イベントの実施内容について ○勉強会・研修会のあり方について
第3回	平成29年11月21日	○第2段階勉強会（第4回勉強会）の開催内容について ○市民啓発イベントの実施内容と開催準備について ○勉強会・研修会のあり方について
第4回	平成30年1月23日	○第2段階勉強会（第4回勉強会）の最終確認 ○市民啓発イベントの最終確認

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討部会の開催（4回）		第1回		第2回			第3回		第4回		
市民啓発イベントの開催											
勉強会の開催（4回）	第1段階	●						●			
	第2段階				●						●
	あり方検討	個別実施状況の確認 → 全体・圏域別・職種別勉強会のあり方検討									

2-2 各回の内容

2-2-1 第1回検討部会

第1回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成29年6月6日（火） 18：30～20：30
開催場所	：市役所 301 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表松崎氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：宮澤課長、松田課長補佐、屋宜、後藤、棚田（以上、高齢福祉課）、長島主幹（以上、地域医療政策担当）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 在宅医療・介護連携支援センターについて 2. 平成29年度の検討スケジュールについて 3. 第1回勉強会の開催について 【議 題】 1. 第2回勉強会の開催方針について 2. 市民啓発イベントの開催方針について 3. 勉強会・研修会のあり方について
配付資料	【当日配布】 平成28年度第3回検討部会議事録、平成29年度第1回検討部会 資料、H28年度第3回介護と医療の連携推進勉強会 開催報告、同ミニアンケートの集計結果、市民啓発シンポジウム等の事例、その他のイベントスペースについて、市民啓発イベント等の事例（要約版）、東京都南多摩医療圏認知症疾患医療センター研修会関連資料、平成28年度事業報告書
結 論	1. 資料に示されたスケジュールに則って平成29年度の活動を進めることとする。 2. 第1段階勉強会については、何度も参加する方々のため、また新しい参加者の獲得のため、改良を検討することとする。 3. 第2回勉強会（第2段階）の開催方針については、以下のような相対する意見が出されたため、事務局が引き続き対応案を検討することとする。 テーマ：今のままが良い／絞り込んだ方が良い ADL：下げた方が良い／下げ（過ぎ）ない方が良い 進行：時間が足りなかった／進行の工夫で対応できる 4. 第4回勉強会（第2段階）は、東京都の認知症多職種協働研修との共催（平川病院との共催）を前提に、都事業と市事業の共催が可能かどうかを確認した上で、具体的な調整を進めることとする。 5. 市民啓発イベントの基本的な方向性は以下の通りとし、次回以降は具体的な内容・やり方について検討を行うこととする。 ー狙い：市民に在宅医療という選択肢がある（家でも頑張れる）ことを伝える ー対象：65歳前後を主対象とし、4、50代にも訴える内容とする ー形式：会場を一体で使い、ステージとブースの両方を配置する 6. 圏域別勉強会のあり方について以下の課題を引き続き検討することとする。 ー全体勉強会とのつながり ー圏域間の情報共有 ー圏域をまたいだ参加の是非

2-2-2 第2回検討部会

第2回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成29年8月15日（火） 18：30～21：00
開催場所	：市役所 503 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表松崎氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：宮澤課長、松田課長補佐、屋宜、後藤、棚田（以上、高齢福祉課）、長島主幹（地域医療政策担当）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 第1回勉強会の開催結果について 2. 第4回勉強会の開催方針について 【議 題】 1. 第2回勉強会の実施内容（改善案）について 2. 市民啓発イベントの実施内容について 3. 勉強会・研修会のあり方について
配付資料	【当日配布】 平成29年度第1回検討部会議事録、平成29年度第2回検討部会 資料、H29年度第1回介護と医療の連携推進勉強会 開催報告、同ミニアンケートの集計結果、第2回勉強会実施内容案詳細、第4回勉強会のイメージ（仮）
結 論	- 第1段階勉強会について以下の改善を図ることとする。 「キャンセルは2日前まで」を開催通知に明記してドタキャン防止を図る - 進行のやり方は他の部会員のやり方（下記参照）を参考に各自が工夫する - 進行役となる部会員が遅刻する場合は事務局が入ってサポートを行う - 第4回勉強会（第2段階）は以下の要領で開催することとする。 - 平川病院との共催で勉強会を開催する - 取り扱う症例は別紙2のイメージを基本とする - 日程は木曜日18時半～を第1候補に3月の予定を確認して調整する ※その後、金曜日19時～で再調整することとなった - 第2回勉強会（第2段階）は前年度に開催した末期がん患者の症例の改善版（マイナーチェンジ）を実施することとする。 - 市民啓発イベントは以下を基本方針に開催準備を進める事とする。 2/18、25を候補に会場の確保を図る - ステージ（全体説明）とブース（職種の紹介）の共存を基本イメージとする - 各ブースでは協議会毎に、①パネルやチラシ、パンフレット等の設置、②相談ブースではなくパネルの説明（人員配置は任意）を実施する - 勉強会の参加職種の拡大について以下の方針で対応する。 - 範囲を無闇に拡大することはせず、今後も一定の線引きを行う - どこまでを範囲とするかについては引き続き検討を行う

2-2-3 第3回検討部会

第3回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成29年11月21日（火） 18：30～21：00
開催場所	：市役所 502 会議室
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表松崎氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：宮澤課長、松田課長補佐、屋宜、後藤、棚田（以上、高齢福祉課）、長島主幹（地域医療政策担当）、委託事業者 【その他】 ：デロイト・トーマツコンサルティング2名（報告1 関連）、平川病院2名（議題1 関連）
プログラム	【報 告】 1. 「日野市在宅療養体制構築のための基本方針」の策定について 2. スケジュールの変更について 3. 第3回勉強会の開催方針について 4. 第2回勉強会の開催結果について 【議 題】 1. 第4回勉強会の実施内容について（※報告1と2の間に実施） 2. 市民啓発イベントの実施内容について 3. 勉強会・研修会のあり方について
配付資料	【当日配布】 平成29年度第2回検討部会議事録、平成29年度第3回検討部会 資料、H29 年度第2 回介護と医療の連携推進勉強会 開催報告、同ミニアンケートの集計結果、市民啓発イベント パネル案、同ステージの実施内容案、同 PR 資料案
結 論	1. 第4回勉強会（第2段階）は以下の要領で開催することとする。 －開始時間は7時から、これまでより長い2.5時間のプログラムとする －これまでよりグループ数の多い8グループを目標に募集を行う －進行役はグループ数に応じて部会員、認知症地域支援推進員＋αで対応する －症例は1つないし2つとする －勉強会の終了後にこれまでと同様に懇親会を開催する 2. 市民啓発イベントに向けて以下の要領で準備を進めることとする。 －部会員は各職種の紹介などを掲載したパネルイメージを作成する －事務局はパネルの規格（縦横サイズ、記載項目、文字サイズ）を連絡する －パネルの脇には説明員を配置する（相談ブースの形とすることも可とする） 3. 勉強会の参加職種の拡大について以下の方針で対応することとする。 －介護サービス事業所は通所と訪問それぞれから参加を募る －総合事業のみ提供する事業者は全体・圏域別の両勉強会への参加を認めない －福祉用具事業所は事務局とサービス事業所協議会で対応を検討する

2-2-4 第4回検討部会

第4回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：平成30年1月23日（火） 18：30～21：30
開催場所	：生活・保健センター1階 予防接種室
参加者	【委員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表高品氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表松崎氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【事務局】 ：宮澤課長、松田課長補佐、屋宜、後藤、棚田（以上、高齢福祉課）、長島主幹（地域医療政策担当）、委託事業者 【その他】 ：認知症地域支援推進員3名（報告2関連）、デロイト・トーマツコンサルティング1名（議題3関連）
プログラム	【報告】 1. 第2回勉強会の開催結果について 2. 連携ガイドの更新にかかる調査の実施について 3. 各職種の新たな動きについて 【議題】 1. 第2段階勉強会の開催内容について 2. 勉強会全体の構成と今後の取組について 3. その他
配付資料	【当日配布】 平成29年度第3回検討部会議事録、成29年度第4回検討部会資料、第4回勉強会関連資料一式、多職種連携ガイド掲載情報確認シート（昨年度書式）、H29年度第3回介護と医療の連携推進勉強会開催報告、同ミニアンケートの集計結果、市民啓発イベントPRチラシ、同パネル展示内容（仮）一式、同パネルディスカッション実施概要、医療計画策定に伴う医療機関・市民向けのアンケート関連資料一式
結 論	1. 第4回勉強会（第2段階）は以下の要領で実施することとする。 　－1つの症例を題材に検討を行い、テーブル毎に発表又は質問を実施する 　－発表×4、質問×4のテーブルは全体発表の直前に司会が指名を行う 　（各テーブルでは予め発表者、質問者をそれぞれ決めて備えておく） 　－時間短縮のため、発表を連続して行う（発表者は重複する内容は省略する） 　－出された質問に対する回答は、進行役となる相馬委員が指名した人物が行う 　（全体進行（平川病院）とは別に全体発表時の進行役（相馬委員）を設ける） 2. 次年度に、検討部会主催の勉強会とは別枠で、神経難病ワークショップを開催することを了承する。 3. 市民啓発イベントを以下の要領で実施することとする。 　－説明者は職種毎に服装（普段着か仕事着）を統一する 　－パネルの側にチラシ等の設置場所を設けるブース形式の配置を検討する 　－DVDを前後半16分上映した後にパネルディスカッションを実施する 　－来場者アンケートを実施する 4. 次年度の活動方針は報告書の中で最終的な案を記載することを目標に、各委員と個別に意見交換等を引き続き実施することとする。

3 多職種協働による連携推進勉強会・研修会の運営支援

3-1 勉強会・研修会の開催状況

「連携推進勉強会」は、高齢福祉課及び「検討部会」が実施主体となって、介護と医療に携わる専門職同士の「顔の見える関係づくり」や多職種が同じ方向を向いてより良いサービスを提供できる体制づくりを目指して、平成26年度から定期的を開催しているものである。

平成29年度は、過去7回開催している「顔の見える関係づくり」を目的とした第1段階の勉強会を2回開催した。第1段階の勉強会については、回数を重ねて慣れが見えてきたことから、テーブル進行等の改善点について検討部会の中で検討を行っている。

また、「顔の見える関係づくり」の次のステップとして、具体的な症例検討等を通じて多職種協働のイメージを共有し、連携の更なる強化を図る第2段階の勉強会を2回開催した。第2段階の勉強会については、前年度に実施した末期がんを症例としたパターンのブラッシュアップと、これとは異なる症例を取り上げた新しいコンテンツの開発を図った。新しいコンテンツの開発にあたっては、認知症を症例に取り上げ、東京都（地域拠点型認知症疾患医療センター）の認知症多職種協働研修と共同開催することで、これまでとは異なるやり方を取り込んでいる。

各勉強会の終了時にはミニアンケートを実施して参加者からの評価を確認しているが、いずれの回も評価が高く今後も継続して開催する予定である。また、勉強会の開催結果は必ずまとめを作成して情報の共有と疑問点の解消に努めているほか、閉会後には懇親会の開催が恒例となっており、これらも多職種の連携推進に役立っている。

この他、市内では上記の勉強会の他にも、地域包括支援センターが主体となって市内4つの日常生活圏域毎に地域の専門職同士の交流や技術の向上を促す勉強会や、各職種が独自に研修会や勉強会、講演会等が開催されているところである。

▼各会の開催日程等

名称	日程	主催と対象
第1回 介護と医療の連携推進勉強会	平成29年6月30日	主催：日野市高齢福祉課 対象：医師会、歯科医会、薬剤師会、訪問看護ステーション協議会、病院、在宅介護事業者協議会、ケアマネ協議会、地域包括支援センター連絡会の各団体※の所属事業所と行政機関（市高齢福祉課・健康課、南多摩保健所） ※「検討部会」に参加する8団体
第2回【第2段階】 介護と医療の連携推進勉強会	平成29年9月29日	
第3回 介護と医療の連携推進勉強会	平成29年12月23日	
第4回【第2段階】 介護と医療の連携推進勉強会 (兼 東京都認知症多職種協働研修) (兼 第2回多職種連携研修)	平成30年3月9日	主催：日野市高齢福祉課と東京都の認知症多職種協働研修を開催する平川病院、日野市医師会との共催 対象：上記の通り

3-2 各会の内容

3-2-1 第1回介護と医療の連携推進勉強会

第1回勉強会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

テーマ	：多職種の連携の輪を広げるために ～顔の見える関係づくり～	
開催日時	：平成 29 年 6 月 30 日（金） 19:30～21:30	
開催場所	：多摩平の森産業連携センター「PlanT」イベントスペース	
出席者	【出席者】 ：関連 8 団体（7 頁参照）と行政機関（事務局を除く）に所属する参加者計 50 名 ：その他聴講者 4 名 【事務局】 ：6 名（グループワーク参加者を含む）	
プログラム	【STEP1 開会挨拶】  ：日野市高齢福祉課からの挨拶 【STEP2 情報提供】  ：グループワークの前に連携や勉強会の趣旨をご説明 【STEP3 付箋の記入】  ：他職種とのお付き合いの状況を青、黄、ピンク3色の付箋に記入して並べる 【STEP4 付箋の紹介と意見交換】  ：机上に並んだ付箋のコメントを見ながら話しあい 【STEP5 全体発表】  ：テーブル毎にどんな話が出たかを発表（付箋の色はある意味各職種の成績発表です） 【STEP? 閉会～】  ：閉会挨拶の後は、居酒屋に会場を移して毎回恒例の懇親会を開催	

3-2-2 第2回介護と医療の連携推進勉強会【第2段階】

第2回勉強会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

テーマ	：多職種で支える末期がん患者の在宅看取り
開催日時	：平成29年9月29日（金） 19:30～21:30
開催場所	：多摩平の森産業連携センター「PlanT」イベントスペース
出席者	【出席者】 ：関連8団体（7頁参照）と行政機関（事務局を除く）に所属する参加者計40名 ：その他聴講者15名 【事務局】 ：7名（グループワーク参加者を含む）
プログラム	【開会】 ：冒頭に日野市高齢福祉課から開会の挨拶と勉強会の趣旨やルールに関する説明を実施 ：導入としてなぜ末期がんを取り上げるのか、がんの病の軌跡ほかを用いて説明を実施 【前半 症例検討（グループワーク）】 ：まず、退院直後の状態安定期に、対象者の希望を叶えるための方策を付箋に書いて共有 ：次に、状態が落ちた後に生じる不安とその対応策について話し合いを実施 ：合間には、異常事態が発生した場合に誰に連絡して何を願うのかのミニ検討を実施 症例検討1 出題 念願叶って自宅に帰ってきたAさんにどんなことがしてあげられたら良いと思いますか？ まずは、今後の体調変化などの問題は忘れて、比較的状态が安定しているAさんに対し、どんなことをしてあげたいかアイデアを出しあいます。 ① 最初に5分間で各自思い付く内容を付箋に記入してください。 ② 順番に自己紹介を行います。お名前・職種と一緒に①で記入した付箋も紹介してください。 ③ 検定紙上で仮た意見をまとめながら、他に思い付くものがないかを感じ合ってください。  症例検討2 出題 Aさんは希望通り自宅で最期を迎えることができるでしょうか？ そのために私達はどうなサポート・ケアができるでしょうか？ 今回は後の検討を行う事で事なきを得ましたが、Aさんの後手能力がかなり落ちてきているようです。本人に確認すると、食事の際にはお母さんがあり、お風呂にはお母さんが入浴が難しいとのこと。Aさんの身体状態を想像し、各チーム（テーブル）でどうサポートするかをまとめます。 ① まず、介護職の方、「（末期がん患者の在宅看取り）末期の方を中心に体が弱って来たAさんの不安材料（Aさんに関する記事や支える側であるあなたの不安）をあげてください。 ② 次に、医療職の方、経験者の方は、現在のAさんの身体状況の理解を深めて、その前の不安材料や留意点をあげてください。 ③ ①②で出された各項目について、自分ができること/後援者にお願したいことを全員で出し合って対応方針を検討してください。 ④ 最後に、発表者を決めて下さい。時間が経っていき、対応の優先順位とテーブルの目標を決すキャッチワードを考えてみてください。  【後半 全体発表～解説】 ：テーブル毎にどんな話が出たかを発表し、全体で共有 ：最後に各グループの発表内容を踏まえて、実際の対応の紹介や対応のポイント解説を実施  

3-2-3 第3回介護と医療の連携推進勉強会

第3回勉強会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

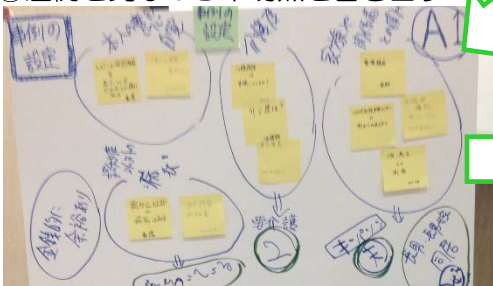
テーマ	：多職種の連携の輪を広げるために ～顔の見える関係づくり～	
開催日時	：平成29年12月23日（金） 19:30～21:30	
開催場所	：多摩平の森産業連携センター「PlanT」 イベントスペース	
出席者	【出席者】 ：関連8団体（7頁参照）と行政機関（事務局を除く）に所属する参加者計43名 ：その他聴講者6名 【事務局】 ：7名（グループワーク参加者を含む）	
プログラム	【STEP1 開会挨拶】  ：日野市高齢福祉課からの挨拶 【STEP2 情報提供】  ：グループワークの前に連携や勉強会の趣旨をご説明 【STEP3 付箋の記入】  ：他職種とのお付き合いの状況を青、黄、ピンク3色の付箋に記入して並べる 【STEP4 付箋の紹介と意見交換】  ：机上に並んだ付箋のコメントを見ながら話しあい 【STEP5 全体発表】  ：テーブル毎にどんな話が出たかを発表（付箋の色はある意味各職種の成績発表です） 【STEP6 閉会～】  ：今回はテーブル毎に記念撮影を実施 ：閉会後は居酒屋に移動して恒例の懇親会を開催	

3-2-4 第4回介護と医療の連携推進勉強会【第2段階】

（兼 東京都認知症多職種協働研修、兼 第2回多職種連携研修）

第4回勉強会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

テーマ	：多職種協働の理論と研修 レビー小体型認知症の在宅介護を題材にして
開催日時	：平成30年3月9日（金） 19:00～21:30
開催場所	：イオンモール多摩平の森3階 イオンホール
出席者	【出席者】 ：関連8団体（7頁参照）と行政機関（事務局を除く）に所属する参加者計74名 ：その他聴講者5名 【事務局】 ：14名（研修参加者及び平川病院関係者を含む）
プログラム	【講義】 平川病院より「多職種協働の理論と研修のあり方」をテーマとする以下の講義を実施 ：認知症の早期対応の必要性和、認知症初期集中支援チームをはじめとする多職種協働のアプローチ（地域包括ケア）の概要について ：チーム員会議及びグループワークの進め方について 【症例検討（グループワーク）】  ①症例を見ながら不明点を書き出す  ②自己紹介をしながら各自の考えを共有  ③介護度等の前提条件をテーブル毎に決定  ④課題とその対応策を順番に検討 【全体発表】 ：今回は8グループと多かったので、4グループが検討内容を発表し、残りの4グループは先の発表に対する質問等を一言コメントする形で、全体での振り返りを行いました  模造紙をスクリーンに映して検討内容を紹介  他グループから厳しい(?)追求もありました

4 地域住民への普及啓発の実施支援

4-1 普及啓発の実施状況

市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療・介護サービスを受ける高齢者等に対する啓発を行い、在宅医療・介護等の普及を図ることを目的として、「ひの在宅医療・介護サービスフェア」と題するイベントを開催した。これは国が示す在宅医療・介護連携推進事業の8つの事業項目の1つである。

イベントは、「住み慣れた家で暮らし続ける」ことについて知ってもらうことを基本テーマに、講演や展示・体験、情報・相談という多様なプログラムで構成し、在宅医療や介護サービスの実際の利用者層だけでなく、これからこうしたサービスを利用する方やその家族まで幅広い層にアピールすることを目指した。

▼イベントの開催概要（チラシ）

平成29年度日野市在宅医療支援事業

施設に入らなくても家で老後を過ごせるの？！

ひの在宅医療・介護サービスフェア

日程 平成30年2月25日(日)

時間 午後1時～午後4時

会場 イオンモール(イオンモール多摩平の森3階)

プログラム(詳細は裏面参照)～

1. 講演「住み慣れた家で暮らし続けるために」
ドキュメンタリー映像と在宅医療・介護の専門職のパネルディスカッションによって、在宅医療・介護のポイントを紹介します！

2. 実際の道具や食事に触れる
実際に使われている介護ベッドや車いすなどの展示や介護食の試食ブースもあります！

3. 詳しい説明を見る・聞く
パネルディスカッションに登壇する専門職が、自身の仕事内容を紹介するパネル展示のほか、各専門職から直接話を聞くこともできます！

「住み慣れた家で暮らし続ける」ことについて、この機会に考えてみませんか？

主 催: 日野市健康福祉部高齢福祉課
後 援: 日野市在宅高齢者介護推進協議会検討部会
日野市医師会、日野市歯科医師会、日野市薬剤師会、日野市訪問看護ステーション協議会
日野市立病院、日野市在宅介護事業所協議会、ひのケアマネ協議会、日野市地域包括支援センター

協 力: ゴルシムビル株式会社、古賀製薬株式会社、スラングベッド株式会社(株不同)

お問合せは ● 日野市高齢福祉課在宅サービス係 (☎514-8496)

プログラム詳細

会場となるイオンモールを2つの空間に区切って、次の1～3のプログラムを実施しています。2、3のプログラムは、午後1時～午後4時の開催時間中いつでも見学・体験することができますので、ぜひお気軽にお越しください！

1. 講演

「住み慣れた家で暮らし続けるために」

ドキュメンタリー映像(約20分)を上映した後、実際に市内で在宅医療・介護に携わる専門職が、補足説明と市民の方からよく聞かれる質問や会場の皆さまからの疑問にその場でお答えします。【定員約70名】

ドキュメンタリー映像
午後1時半～午後2時

パネルディスカッション
午後2時～午後3時

ドキュメンタリー映像「在宅医療」を知っていますか？
～家で最期まで療養したい人に～

脳梗塞で倒れ、医師からは「リハビリをして回復は望めない」と言われながら、人工呼吸器をつけたまま自宅に帰ってきた妹さんの様子などを通じて、在宅での生活をこれを支える医療・介護の必要性を知ることができます。

将来に突然とした不安を感じているという方から、病にご家族を介護しているという方まで「実際の話を聞いてみたい」「効率よく要点を把握したい」という方に特にオススメです。

2. 実際の道具や食事に触れる(展示・体験コーナー)

様々な企業の協力のもと、以下のような展示を実際に体験していただくことができます。

福祉用具の体験	介護食の試食コーナー	医療機器の展示・体験
介護ベッドや車椅子など見たことはあっても、実際に使う機会について、実際に使い方を確認できます！	今までの食事が「飲み込みにくくなった」「飲み込みにくくなった」という方のために、柔らかさや形態に配慮した食品を試食できます！	実際に在宅医療の現場で使用する機器について、間近で見て、体験して、詳しい説明を聞くチャンスです！

例えば、「当日ふらっと会場に立ち寄った」というような、在宅医療や介護についてまだあまり関心がない方でも、きっと楽しめる、お役に立つコーナーです。

3. 詳しい説明を見る・聞く(情報・相談コーナー)

パネルディスカッションに登壇する専門職が、それぞれの職種や役割や市民の方から知っておいていただきたい情報を、パネルやチラシにまとめてご紹介いたします。

専門職に、より詳しい説明を聞いたり相談をしたりするチャンスです。

講演を聞いた後に、より詳しい内容を知りたいという方や「この職種に訪問をお断りしたい」「あの職種にこんなことを聞いてみたい」といった、知りたいことが明確になっている方にお勧めです。

4-2 イベントの開催結果

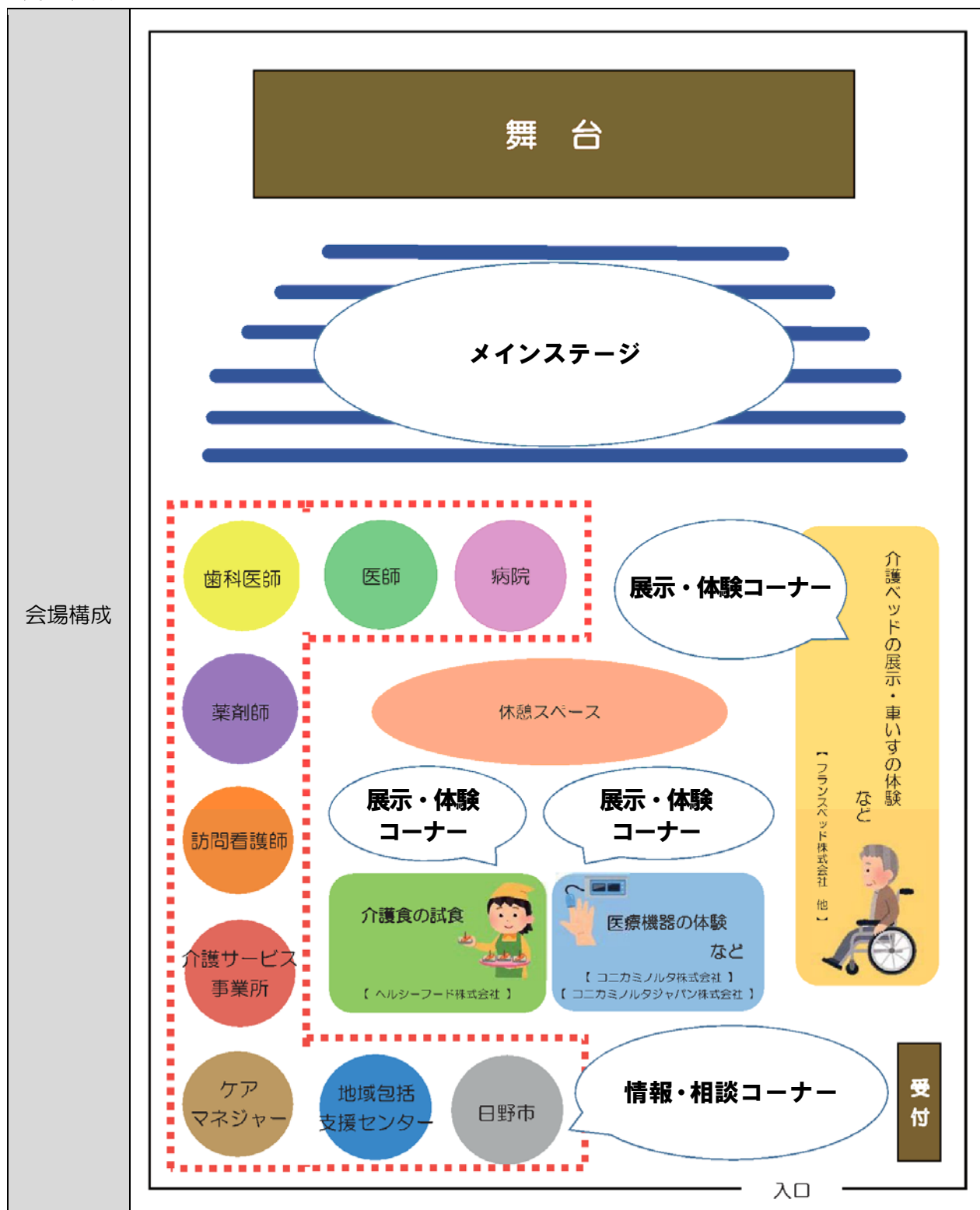
4-2-1 具体的な実施内容

イベントの内容は以下の通りである。

▼開催概要 1/2

タイトル	：ひの在宅医療・介護サービスフェア 施設に入らなくても家で老後を過ごせるの？！
開催日時	：平成 30 年 2 月 25 日（日） 13:00～16:00
開催場所	：イオンモール多摩平の森3階 イオンホール
来訪者	：延べ 150 人
プログラム	【メインステージ 講演「住み慣れた家で暮らし続けるために」】 ：まず、DVD “「在宅医療」を知っていますか？～家で最期まで療養したい人に～”（勇美記念財団作成）を上映し、在宅生活を支える医療・介護の概要を紹介 ：次に、「検討部会」委員がパネリストとなって、在宅生活に関する基本的なアドバイスや会場からの質問に対する回答をパネルディスカッション形式で実施   【展示・体験コーナー】 ：様々な企業の協力のもと実際の道具や食事に触れるコーナーを設置    福祉用具の体験 介護食の試食 医療機器の展示・体験 【情報・相談コーナー】 ：パネルディスカッションに登壇する専門職が、それぞれの職種の役割や市民の方にとっておいていただきたい情報をパネル等にまとめて紹介 ：各ブースには専門職が待機して、直接話を聞きたい人、相談したい人への対応も実施   パネルにチラシ、実際の器具を並べるブース 相談スペースを設置するブース

▼開催概要 2/2



4-2-2 市民の声

イベント来場者には、イベントの感想や今後の要望等を尋ねるアンケートを配付し、会場出口で回収することとした。回収したアンケートと引き換えに、日野市と「相互協力・連携に関する協定」を締結する大塚製薬株式会社より提供を受けたカロリーメイトゼリーをプレゼントすることとしたところ、のべ150人の来場者のうち63人からアンケートを回収することができた。

調査結果の概要は以下に示す通りである。

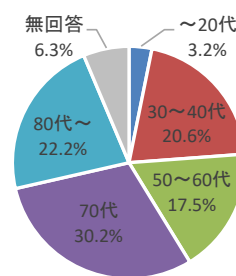
▼問1 回答者の傾向

- 回答者の年齢は、70代が最も多く、続く80代以上とあわせて50%強を占めるが、30～40代、50～60代も20%前後となっている。
- 回答者の性別は、女性が全体の約3/4を占める（70代以上の女性が回答者の約半数）。
- 既に在宅医療・介護サービスを利用しているのは15人で回答者の約1/4となっており、これから利用することになる人、あるいは利用を検討している人が多くなっている。

（1）年齢

■回答者数（N=63）

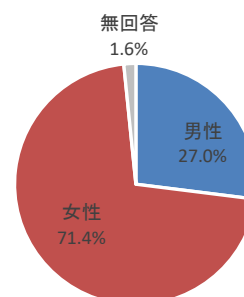
選択肢	回答数	%
～20代	2	3.2%
30～40代	13	20.6%
50～60代	11	17.5%
70代	19	30.2%
80代～	14	22.2%
無回答	4	6.3%
合計	63	100%



（2）性別

■回答者数（N=63）

選択肢	回答数	%
男性	17	27.0%
女性	45	71.4%
無回答	1	1.6%
合計	63	100%



（3）在宅医療・介護サービスの利用状況

■回答者数（N=15：在宅医療及び介護サービスについて「利用していない」を選んだ方を除外して集計）

選択肢	在宅医療	介護サービス	合計
本人が利用している	0	3	3
同居する家族が利用している	2	3	5
離れて暮らす家族が利用している	3	6	7
合計	5	12	15

※在宅医療と介護サービスの両方を利用している方がいるため、それぞれの利用者数を足しても合計と一致しない

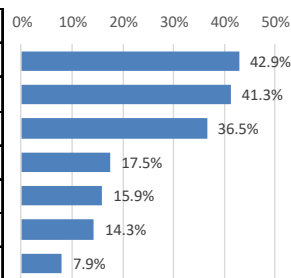
▼問2 イベントの評価 1/2 (イベントの感想等)

- イベントに参加した理由は、「自分や家族の将来に漠然とした不安があるから」「在宅医療を利用したい／もっと詳しく知りたいから」「介護サービスを利用したい／もっと詳しく知りたいから」がそれぞれ多くなっている（漠然とした不安は高齢の方がやや多い）。
- イベントに参加して「とても良かった」「良かった」という人が8割超を占めている。
- 「在宅医療・介護サービスに関わる仕事をしているから」と参加した30代の方で「もっと身近で具体的な内容が欲しい」と考える1名が「とても良くなかった」と答えている。
- 来て良かったと思うプログラムは、ほぼ全員が「パネルディスカッション」と答えており、次いで多いのが「DVDの上映」でメインステージのプログラムが特に多くなっている。
- その他のプログラムは各年齢層で一定の支持を集めているが、回答者の年齢構成と比較すると30～40代からの支持が特に多く、70代からの支持がやや少ない結果となっている。

(1) イベントに参加した理由（複数回答）

■回答者数 (N=63)

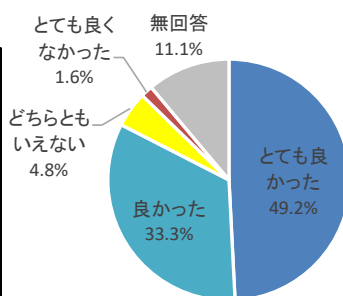
選択肢	回答数	%
自分や家族の将来に漠然とした不安があるから	27	42.9%
在宅医療を利用したい／もっと詳しく知りたいから	26	41.3%
介護サービスを利用したい／もっと詳しく知りたいから	23	36.5%
福祉用具や介護食、医療機器を利用したいから	11	17.5%
在宅医療・介護サービスに関わる仕事をしているから	10	15.9%
その他	9	14.3%
無回答	5	7.9%
合計	63	100%



(2) イベントに参加した感想

■回答者数 (N=63)

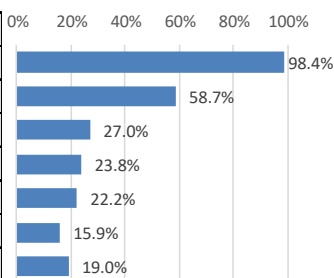
選択肢	回答数	%
とても良かった	31	49.2%
良かった	21	33.3%
どちらともいえない	3	4.8%
良くなかった	0	0.0%
とても良くなかった	1	1.6%
無回答	7	11.1%
合計	63	100%



(3) 来て良かったと思うプログラム（複数回答）

■回答者数 (N=63)

選択肢	回答数	%
パネルディスカッション（講演後半）	62	98.4%
DVDの上映（講演前半）	37	58.7%
介護食の展示・試食	17	27.0%
介護用品（ベッド等）の展示・体験	15	23.8%
職種別のパネルの展示・相談	14	22.2%
医療機器の展示・測定	10	15.9%
無回答	12	19.0%
合計	63	100%



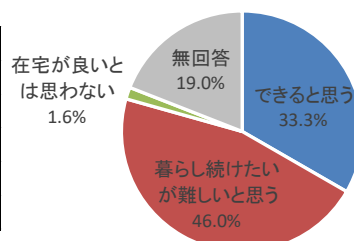
▼問2 イベントの評価 2/2 (今後のヒント)

- 「暮らし続けたいと思うが難しいと思う」と答える人が約半数を占めている。
- そのように考える理由は、「一人暮らしだから」「子どもに世話をかけたくない」が多い。
- 「費用負担」「元気なうちから準備できること」「家族等の支援が(どの程度)必要か」がトップ3で、「入院・入所と比較した場合のメリット/デメリット」が次に続いている。
- 具体的な事業所を知りたいという意向はやや少なくなっている。
- 「チラシ・ポスター」「市の広報」が多く、両者をあわせると約半数を占める。
- ただし、「30～40代」でこの2つを、「～20代」で「チラシ・ポスター」を選んだ回答者はいないため、若い層にアプローチする場合には他の方法を検討する必要がある。

(4) イベントを通して最期まで在宅で暮らし続けることができると思ったか

■回答者数 (N=63)

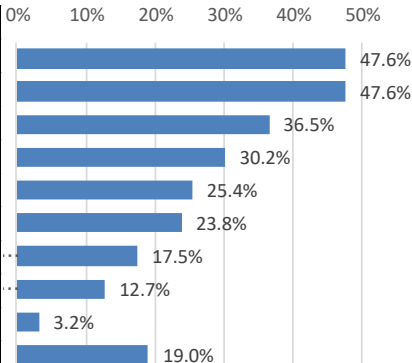
選択肢	回答数	%
できると思う	21	33.3%
暮らし続けたいが難しいと思う	29	46.0%
在宅が良いとは思わない	1	1.6%
無回答	12	19.0%
合計	63	100%



(5) 在宅医療・介護サービスについてもっと詳しく知りたいこと(複数回答)

■回答者数 (N=63)

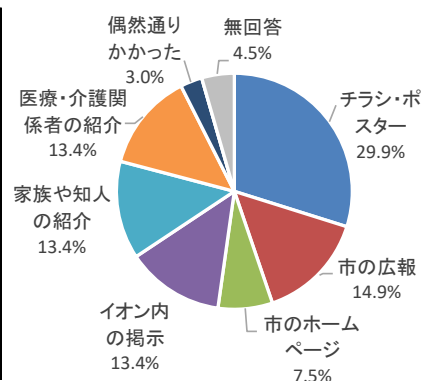
選択肢	回答数	%
費用負担がどれくらい発生するのか	30	47.6%
元気なうちから準備できることは何か	30	47.6%
家族等の支援が(どの程度)必要か	23	36.5%
入院・入所と比較したメリットは何か	19	30.2%
入院・入所と比較したデメリットは何か	16	25.4%
相談やお願いをどこにすれば良いか	15	23.8%
訪問してくれる事業所は具体的にどこか	11	17.5%
持病など特定の疾患に対応してもらえるか	8	12.7%
その他	2	3.2%
無回答	12	19.0%
合計	63	100%



(6) 本日のイベントを何で知ったか

■回答者数 (N=63)

選択肢	回答数	%
チラシ・ポスター	20	31.7%
市の広報	10	15.9%
市のホームページ	5	7.9%
イオン内の掲示	9	14.3%
家族や知人の紹介	9	14.3%
医療・介護関係者の紹介	9	14.3%
偶然通りかかった	2	3.2%
その他	0	0.0%
無回答	3	4.8%
合計	63	100%



※2つ以上の選択肢に○をつけている方がいたため、実際の回答数を合計しても63にはならない

5 国、東京都・他自治体の取組み等の情報提供

5-1 調査の実施状況

平成29年度は、「日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会（2章）」の検討にあわせて、「地域住民への普及啓発（4章）」に関する以下の事例について情報提供を行った。

「シンポジウムの開催例」と「在宅療養ハンドブック・ガイドブックの作成例」は、それぞれ啓発イベントのメインコンテンツとなる講演（全体説明）と情報・相談コーナー（職種の紹介）の参考となることを想定したものである。

次項以降にその概要を示す。

▼調査を行った項目

調査項目	事例名称
シンポジウムの開催例	①川崎市 在宅医療市民シンポジウム 「住み慣れた地域で暮らし続けるために」 ②杉並区 在宅医療推進フォーラム 「がんになっても自分らしく生きるための在宅医療」 ③東京都 都民向け講演会 「暮らしの場における看取り」 ④世田谷区 春のお彼岸シンポジウム 「おうちですっと暮らしたい」
在宅療養ハンドブック・ガイドブックの作成例	①町田市 在宅療養ガイドブック 「住み慣れたわが家で自分らしく生きたい」 ②練馬区 在宅療養ガイドブック 「わが家で生きる」 ③墨田区 在宅療養ハンドブック 「ずっとわが家で暮らせる安心のネットワーク」 ④横須賀市 在宅療養ガイドブック 「最期までおうちで暮らそう」 ⑤横須賀市 在宅療養ガイドブック vol.2 「ときどき入院・入所ほぼ在宅」 ⑥東京都 都民向け普及啓発冊子 「住み慣れた街でいつまでも チームで支えるあなたの暮らし」 ⑦東京都 都民向け普及啓発冊子 「住み慣れた街でいつまでも フレイル予防で健康長寿」 ⑧国立市 「くにたち在宅療養ハンドブック」

5-2 シンポジウムの開催例

5-2-1 収集した事例の概要

前年度も地域住民への普及啓発の方法としてイベントを開催する事例の収集・紹介を行ったところであるが、今回は講演形式の実施内容の参考として、パネルディスカッション等を中心としたシンポジウムの開催例に絞り込んで改めて情報提供を行った。

▼収集した事例の概要一覧表

	川崎市の例	杉並区の例	東京都の例	世田谷区の例
①基調講演・ 情報提供	テーマ： 住み慣れた地域で暮らし続けるために 講演者： 横浜市在宅医組織代表	テーマ： 住み慣れた地域で暮らし続けるために 講演者： 看護師／プロフェッショナル仕事の流儀 出演	テーマ： 住み慣れた地域で暮らし続けるために 講演者： 全国在宅医組織代表／都会議の会長	(なし)
②補足講演	(なし)	テーマ： 生ききるための支援を考える 講演者： 市内専門職、家族からのメッセージ	テーマ： ご家族の立場から経験した看取り 講演者： 看取りを行った家族	テーマ： 在宅医療、救急医療等の紹介 講演者： 市内医師、消防署、訪問看護師
③パネルディスカッション	テーマ： わが家で暮らす！を支えます パネラー： 市内専門職、コーディネーターも市内	(なし)	テーマ： 看取りを振り返って パネラー： 看取り支援を行う専門職、コーディネーター医師等	(上と連続で実施)

5-2-2 個別の事例の詳細

今回情報提供を行ったのは4つの事例だが、このうち3事例については前年度も簡単に紹介を行っていることから、ここでは新たに追加した1事例の概要を以下に掲載する。

▼事例①：川崎市 在宅医療市民シンポジウム 「住み慣れた地域で暮らし続けるために」

同チラシ（※開催内容が分かりやすくまとめたチラシの内容を掲載する）

川崎市在宅医療市民シンポジウム

住み慣れた地域で暮らし続けるために

川崎市では、各職種団体による「川崎市在宅療養推進協議会」を立ち上げ、在宅医療の推進に取り組んでおります。川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンにそって、住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりを進めるため、ご参加いただく皆様と一緒に在宅医療・介護の事を考えたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

【日 時】平成28年10月16日(日)

14時～16時30分(受付13時20分～)

【会 場】川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）7階大会議室
 【定 員】180名(申込先着順) 【対象者】市民、市内医療・介護関係者等
 ※申し込みは 9/15 から受付開始です。裏面にご記入の上FAX下さい。



参加費無料

プログラム

14:00	開会あいさつ	高 橋 章 坂 元 昇	川崎市医師会会長 川崎市健康福祉局 医務監
14:10	基調講演 「住み慣れた地域で暮らし続けるために」	岡 田 孝 弘 氏	(在宅医ネットよこはま代表 オカダ外科医院院長)
15:10	パネルディスカッション 「わが家で暮らす！を支えます」 ～認知症の事例を通じて～	コーディネーター：染 谷 貴 志 氏 川崎市医師会理事	
	パネリスト：	在宅医の立場から 渡 邊 寛 之 氏 渡辺クリニック院長 訪問看護の立場から 古 川 知 加 氏 訪問看護ステーションゆらりん ケアマネジャーの立場から 田 中 真 紀 氏 ツクイ高齢者住宅ケアプランセンター 訪問介護員の立場から 昆 さゆり 氏 ツクイ・サンフォレスト川崎麻生	
16:30	閉会あいさつ	広 瀬 壽美子	川崎市看護協会

岡田 孝弘 氏 のプロフィール



1988年3月 聖マリアンナ医科大学卒業、その後、医学博士取得
 1999年3月 オカダ外科医院に在宅医療部併設
 2003年6月 「在宅医ネットよこはま」設立 代表就任
 2005年4月 横浜市旭区医師会 副会長(2013年5月まで)
 2008年3月 全国在宅療養支援診療所連絡会 理事
 2013年4月 神奈川県在宅療養支援診療所連絡会 副会長

■参加申込方法

裏面の参加申込書にご記入の上、川崎市看護協会あて、郵送、ファックス又はEメールによりお申込み下さい。

■問合せ・申込先 (公社) 川崎市看護協会
 〒211-0067 中原区今井上町1-34 和田ビル3階
 TEL 044-711-3995 FAX 044-711-5103
 E-mail: mail1@kawa-kango.jp

主催：川崎市在宅療養推進協議会・川崎市

5-3 在宅療養ハンドブック・ガイドブックの作成例

5-3-1 収集した事例の概要

ステージで行うパネルディスカッション等の取り扱うテーマの参考として、またステージと別に設置するブースにおいて各専門職の紹介内容や紹介方法の参考として、地域住民への情報提供のために各自治体でまとめているハンドブック・ガイドブックの事例について収集・紹介を行った。

▼収集した事例の概要一覧表

在宅療養ハンドブック・ガイドブックの例

A) 典型的な症例・状況をいくつか抽出している例

- ①町田市 在宅療養ガイドブック 「住み慣れたわが家で自分らしく生きたい」
- ②練馬区 在宅療養ガイドブック 「わが家で生きる」
- ③墨田区 在宅療養ハンドブック 「ずっとわが家で暮らせる安心のネットワーク」

B) ADL の段階毎に特徴的な状況を抽出している例

- ④横須賀市 在宅療養ガイドブック 「最期までおうちで暮らそう」
- ⑤横須賀市 在宅療養ガイドブック vol.2 「ときどき入院・入所ほぼ在宅」

D) 在宅療養に関わる専門職を個別に紹介している例

- ⑥東京都 都民向け普及啓発冊子 「住み慣れた街でいつまでも チームで支えるあなたの暮らし」
- ⑦東京都 都民向け普及啓発冊子 「住み慣れた街でいつまでも フレイル予防で健康長寿」
- ⑧国立市 「くにたち在宅療養ハンドブック」

※1 在宅療養ガイドブック・ハンドブックは、在宅療養の概要を広く伝えることを目的に作成されているため、例えば前半に「ある状況に関するエピソード」、後半に「在宅療養に関わる専門職の紹介」という構成になっているものも多いが、ここでは特徴的な箇所を抽出して上の A～C に分類した。

※2 他に日野市の多職種連携ガイドブックのような職種紹介＋連絡先一覧の構成となっているものも多かったが、これは既知の内容であるため紹介を省略した。

5-3-2 個別の事例の詳細

今回調査を行ったのは以下のような事例である。

ここでは、ハンドブック・ガイドブックの概要が分かる表紙と目次を掲載する。画像は全て当該資料を出典とする。

▼事例①：町田市 在宅療養ガイドブック 「住み慣れたわが家で自分らしく生きたい」

同冊子



▼事例②：練馬区 在宅療養ガイドブック 「わが家で生きる」

同冊子



住み慣れた自宅ですべて自分らしく

わが家で生きる

—練馬区在宅療養ガイドブック—

平成26年(2016年)10月

練馬区

目次

	退院から退院される方向け	退院、在宅療養中の方向け	現在、健康な方向け
4	こんなお悩み、抱えていませんか？	退院	退院
6	在宅療養を希望する、ケアのプロフェッショナル集	退院	退院
	実際の在宅療養って、どんな経過をたどるんだろう？	退院	退院
8	脳卒中(脳血管疾患)の方の在宅療養生活	退院	退院
10	認知症(アルツハイマー 型認知症)の方の在宅療養生活	退院	退院
12	がん末期の方の在宅療養生活	退院	退院
14	高齢者のみの世帯、高齢者のひとり暮らしで、在宅療養は可能ですか？	退院	退院
	在宅療養を支えるメンバーの紹介	退院	退院
16	お医者さんが自宅に来てくれる“在宅医療”とは？	退院	退院
18	歯医者さんが自宅に来てくれる“訪問歯科診療”とは？	退院	退院
19	薬剤師さんが自宅に来てくれる“訪問看護”とは？	退院	退院
20	看護師さんが自宅に来てくれる“訪問看護”とは？	退院	退院
21	地域の相談窓口って、どこにありそうですか？	退院	退院
22	介護保険を利用しながら自宅で自分らしい療養生活を	退院	退院
24	介護保険サービスってどんな種類があるんだろう？	退院	退院
	もっと在宅療養を知るために	退院	退院
28	よくある！在宅療養に関するソボクナゼモン、なんでもQ&A	退院	退院
32	在宅療養体験記	退院	退院
35	在宅療養を支える2家系の情報へ —介護の先生からのアドバイス—	退院	退院
36	高齢者相談センター(支所)一覧	退院	退院

3

～はじめに～

この冊子を、 手に取ったあなたへ

みなさんは、「在宅療養」という、ききこえませんか？

「在宅療養」とは、
「住み慣れた自宅に、お医者さんや看護師さん、
ホームヘルパーさんなどに来てもらって、
「医療」と「介護」を受けながら療養生活を送ること」です。

みなさんは、ご家族やご自身がこれから医療や介護が必要になった時、
どこで、どのように、暮らしたいでしょうか？

練馬区が平成25年に行った調査では、
高齢者の約3割が「最終は自宅で過ごしたい」と答えています。
しかし、「最終は自宅で」と考える方の約半数の方が
「実際に在宅療養を実現することは難しいと思う」と
感じていることがわかりました。

現在、練馬区では、
区民の皆様が医療と介護が必要となっても、
住み慣れた「わが家」で最後まで安心して療養生活が送れるよう、
在宅療養体制の構築に向けて取組を進めています。

この冊子は、みなさんが「わが家で生きる」という選択について
考えるきっかけとしていただくためにまとめた、
在宅療養は実際にどのようなものなのか、
そして在宅療養を支える様々な仕組みや
自宅で受けられる医療や介護のサービスなどについて、
できるだけわかりやすい表現を用いて紹介しています。

この冊子を通して、みなさんの大切な人やご自身の「医療」
として「自分らしい生活」を考えるための一歩になれば幸いです。

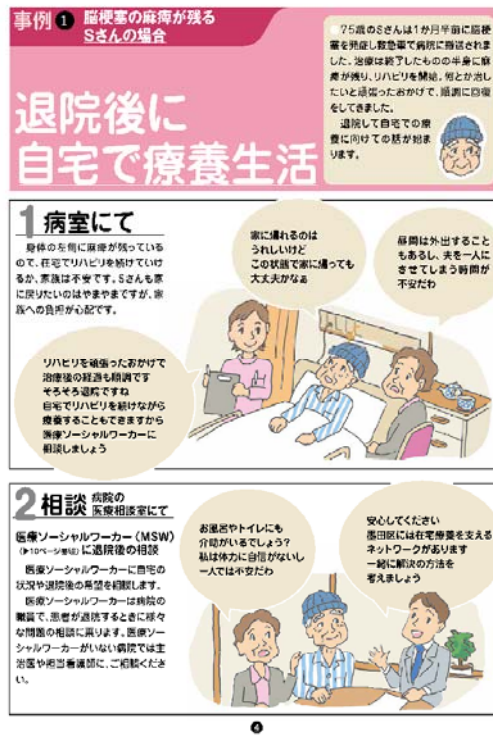
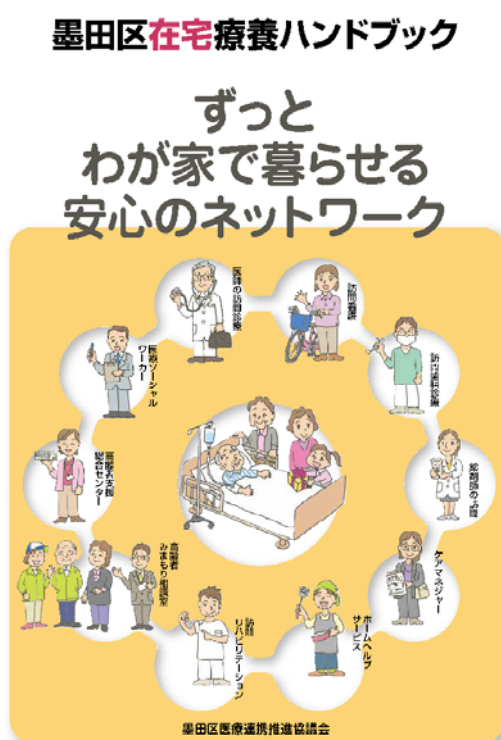
練馬区



4

▼事例③：墨田区 在宅療養ハンドブック 「ずっとわが家で暮らせる安心のネットワーク」

同冊子



▼事例④：横須賀市 在宅療養ガイドブック 「最期までおうちで暮らそう」

同冊子



まえがき

この冊子は、市民のみなさんがご自宅での療養や看取りについて考えるときに、理解しておいていただきたいことを、まとめたものです。

平成25年度に横須賀市は65歳以上の介護認定を受けていない市民の方を対象にアンケートを実施しました。「あなたが病気などで人生の最期を迎えるときが来た場合、最期はどこで過ごしたいと思いますか」という設問に対し、自宅での療養を希望される人の割合は60%でした。

人は、いつか、どこかで、何かの原因で、その“いのち”を閉じる時がきます。しかし、元気なうちは、誰も知っているはずのその事実をあまり意識しない人が多いようです。

あなたは、あなた自身の人生の最期をイメージされたことがありますか。そのことについて、ご家族と話し合ったことはありますか。

いつか訪れる“その時”に、あなた自身やご家族があわないように、どのように“その時”を迎えたいか、考えておくことも大事です。それは、あなた自身が、“その時”まで、あなたらしい人生をどのように生きるのかを考えることと同じです。

そして、あなたがもし、住み慣れた場所で最期まであなたらしい生き方をしたいと望むなら、この冊子をご自宅での療養（在宅療養）の検討材料としてお役立てください。
あなたの人生のよりよい終幕のために。



もくじ

エピソード① おうちに帰ってきたおじいちゃん	1
在宅療養とははじめ	3
在宅療養と在宅看取り	4
あなたの意思を伝える“リビング・ウィル”	6
在宅療養を支えるスタッフと自宅のできる医療と介護	7
エピソード② 住み慣れた我が家へ帰るために ～退院前カンファレンス～	11
在宅療養に関わる保険制度と費用負担	13
自宅での看取りにあたって	15
こんな本を読んでみませんか	17
エピソード③ おばあちゃんの軌立ち	19
在宅療養に関する相談窓口	21
あとがきにかえて ～“わたし”からのメッセージ～	24

おうちに帰ってきたおじいちゃん エピソード①

うちのおじいちゃんば94歳。寝たきりのベッド生活は、もう1年以上になりました。

わたしたち家族は、訪問介護やデイサービスを利用して、おじいちゃんの自宅介護を続けていました。持病がありましたので、2か月に一度、介護タクシーをお願いし、車椅子でかかりつけのお医者さんへ連れて行きました。

おじいちゃんは「すまないわ」と家族に言いながらも、ベッドの上で寝て過ごし、好きな時にテレビをつけ、ひ孫のおしゃべりに笑顔し、穏やかな療養生活を送っていました。

「迷惑かけるから、早くお迎えが来てほしいよ」と口癖のように言うおじいちゃんに、「何言ってるのよ」とわたしは軽く笑っていました。たしかに介護はたいへんですが、わたしたち家族もだんだんと介護に慣れ、なんとなく、自分のおいた、このままの生活が続くだろうと思っていました。



ところが、おじいちゃんは、徐々に食が細くなり、ご飯が食べられなくなっていました。おかげを、ひと口、ふた口がやっとなです。水分もほとんど取りません。

日に日に弱っていくように見えました。わたしたちは、不安でした。どうしたらいいのかわからない…。

やっとなことで車椅子に寄せ、いつものお医者さんに連れていきました。「それほどひどい状況ではないけどなあ。」
「でも、先生、ご飯食べてくれないんですよ、このままじゃ死んじゃいます」「うーむ。じゃ、ちょっと脱水症状を起こしているから、入院して改善してもらおうか」と、病院への紹介状を書いていただきました。

同冊子



まえがき

この冊子は、施設を中心とした医療と介護サービスを上手に活用し、無理のない在宅療養生活を送ることを、市民の皆さんにご提案するものです。



横須賀市では平成25年度に在宅療養ガイドブック「最期までおうちで暮らそう」を発行しました。この「最期までおうちで暮らそう」では、ご自宅での療養や看取りについて考える時に理解しておいていただきたい、基礎的なことをまとめました。

これを第1弾とし、今回の冊子は、在宅療養ガイドブックのシリーズ第2弾となります。

第2弾「ときどき入院・入所 ほぼ在宅」では、より具体的な在宅療養生活を紹介していきます。

在宅療養を始めるにあたって、心配なことはそれぞれにお持ちと思いますが、多く耳にするのは「ご家族への負担」や「見合がなくなった時の不安」です。

人生の最終段階を迎えるころには、介護が必要となる場合がほとんどです。「住み慣れたわが家で最期まで暮らしたい」と思っても、その介護のすべてを家族だけで担おうとすると、負担は大きなものになります。また、急変時の不安を持ちながらでは、穏やかな生活を送るのは難しくなってしまいます。

今回の冊子では、介護保険を利用した通所のサービスや短期間入所、在宅患者さんの病状が悪化した時などの病院の受入体制についてもご紹介いたします。

この冊子をおとして、少しでも在宅療養に対しての不安が和らぎ、人生の最期を迎える時のひとつの選択肢として、在宅療養・在宅看取りをご検討いただければ幸いです。

横須賀市長 吉田雄人

もくじ

1. エピソード① デイサービスを利用する	1
2. 通所サービス	3
3. エピソード② ショートステイを利用する	7
4. ショートステイやその他の施設の短期宿泊利用	9
5. エピソード③ 入院が必要になったら	11
6. 医療機関の機能分担	13
7. 病院への入所	14
8. 「退院する」ということ	14
9. 介護保険サービスについて	15
10. 介護予防・日常生活支援総合事業	16
11. 在宅療養に関する相談窓口	17
12. こんな本を読んでみませんか	19
あとがきにかえて	20

在宅療養ガイドブック vol.1 もくじ

- ・エピソード①おうちにかえりたかったおじいちゃん
- ・在宅療養とはじめ
- ・在宅療養と在宅看取り
- ・あなたの意思を伝える“リビング・ウィル”
- ・在宅療養に関わる保険制度と費用負担
- ・エピソード②住み慣れた我が家へ帰るために～退院前カンファレンス～
- ・在宅療養に関わる保険制度と費用負担
- ・自宅での看取りにあたって
- ・こんな本を読んでみませんか
- ・エピソード③おばあちゃんの独立心
- ・在宅療養に関する相談窓口
- ・あとがきにかえて～“わたし”からのメッセージ～

デイサービスを利用する

エピソード①

私の妻は認知症のため、夜間は外へ徘徊したり、幻覚が見えて騒いだり、どう対応したらいいのかわかっていません。そんな私たちを心配して、ご近所さんが、地域の民生委員さんと様子を見に来てくれました。

「このままじゃ家族も共倒れしちゃいますよ。介護サービスを上手に使いましょう。介護認定は受けていますか？」

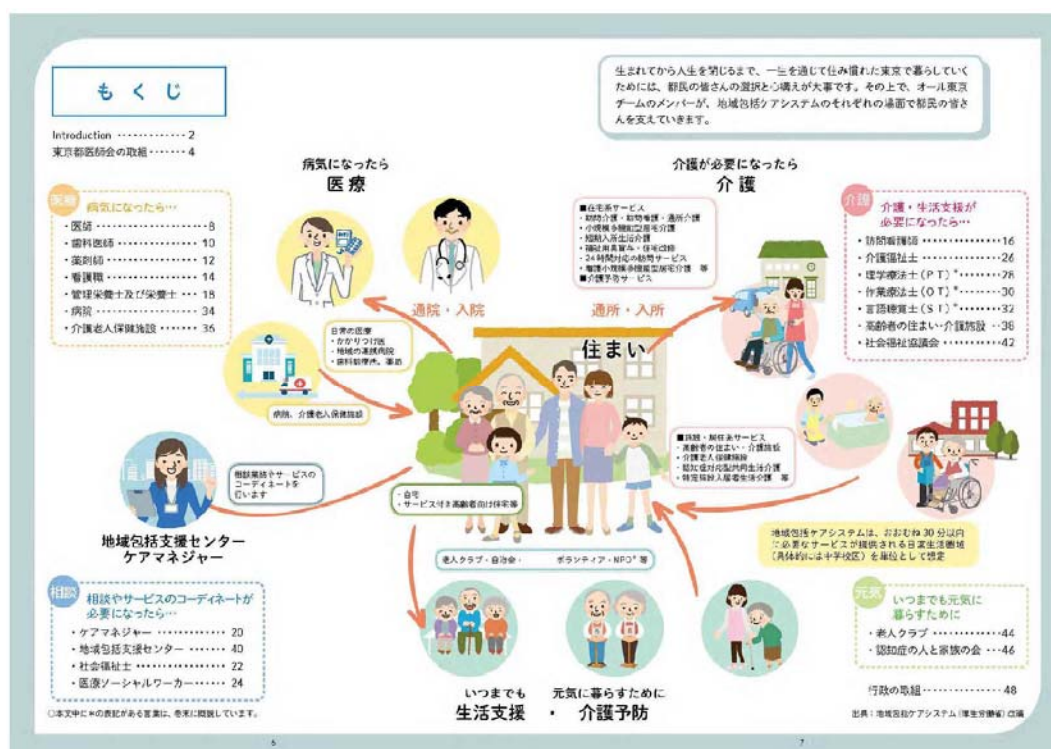
そう言えば、認知症の診断を受けた時、先生からそんな話も聞きましたが、気が動転して、何もしていませんでした。早速、近くの地域包括支援センターを民生委員さんから教えてもらい、相談することになりました。地域包括支援センターでは、妻の状態や私の悩みを聞いてくれて、それに適したどんな介護保険サービスがあるのかも教えてくれました。また、認定申請の手続きも代行して行ってもらえました。その後、妻は要介護2の認定を受け、担当のケアマネジャーも無事決まりました。妻には昼夜逆転の様子も見られにので、ケアマネジャーと相談し、昼間は寝ないでしっかりと活動してもらうように、週2回の認知症対応型デイサービスを開始しました。

認知症になってからは、知らない場所に行くのを嫌がるが多かったのでちゃんと通えるか不安もありました。しかし、認知症に理解のある職員さんの温かい声掛けもあり、徐々にデイサービスにも慣れ、スムーズに通えるようになりました。



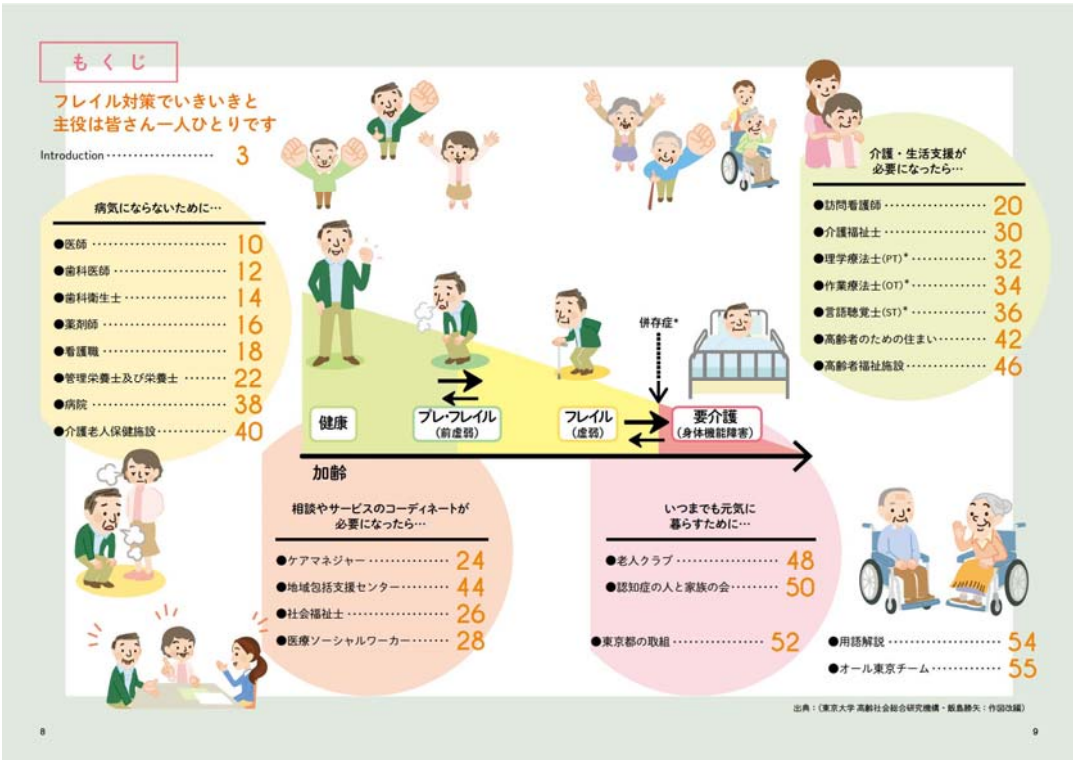
▼事例⑥：東京都 都民向け普及啓発冊子「住み慣れた街でいつまでも チームで支えるあなたの暮らし」

同冊子



▼事例⑦：東京都 都民向け普及啓発冊子 「住み慣れた街でいつまでも フレイル予防で健康長寿」

同冊子



▼事例⑧：国立市 「くにたち在宅療養ハンドブック」

同冊子



「救急車に頼らなくても、きっと大丈夫。今よりもっと安心できる。」

元氣だと思っけても急に体調が悪くなることがあります。そんなときに相談できる人はいますか？実は、多くの方がすぐに救急車を呼んでしまい、思っけてもみななかつた結果になっていることもあります。そうならないようにするには、日頃からお住まいの地域のかかりつけ医や訪問看護士と繋がりをもつことがおすすめです。

適切なアドバイスをもらい、体調が整えば、「もっと安心」して暮らせるようになるでしょう。あわてて救急車を呼ばなくても、「きつと大丈夫」です。そのために役立てて頂きたい一冊です。

~ 目 次 ~

- ひどりで悩んでいませんか?・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
療養生活を応援してくれる主な人々
- だよりになる「かかりつけ医」をもっていますか?・・・・・・・・ 3
かかりつけ医はこんなことをしてくれそうです
かかりつけ医に相談する時のポイント
- 病院から家に帰りたい、退院後の家での生活が心配だ
と思った時は、誰に相談していますか?・・・・・・・・・・・・ 5
退院が決まってこんな心配はありませんか?
- 自分に合うケアマネさんに出会えていますか?・・・・・・・・ 7
すぐれたケアマネさんとはどんな人でしょうか?
- 自宅での療養生活が不安なときは、誰に相談していますか?・・・ 9
知っておきたい日常的な症状のポイント
- いざという時、頼りになる訪問看護をご存知ですか?・・・・ 11
訪問看護ステーションQ&A
- 食事がとれなくなったらどうしますか?・・・・・・・・・・・・ 15
胃ろうによつて変わるウツ・ホント
宮ろうQ&A

- 美味しく食事をしていますか？
～よくがんで食べることは、元気の秘訣です～・・・・・・・・・・17
- お口のこと、困っていることはありませんか？
どんな相談ができるの？
● 薬のこと、困っていませんか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
薬剤師がご自宅へ伺います！
- あなたはどこで最期を迎えたいですか？・・・・・・・・・・21
呼吸が止まった時に救急車を呼ぶと・・・？！
- 最期はどうなるのでしょうか、心配していませんか？・・・・・・・・23
終末期へ向かうなかで決めておくこと
- エンディングノートとは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
- 認知症になっても地域で支えあおう！・・・・・・・・・・27
認知症を理解しよう
家族がつくった「認知症」早期発見のめやす
認知症に関する相談窓口
成年後見制度をご存知ですか？
- 地域包括支援センターってなに？・・・・・・・・・・31
地域の困りごとの相談窓口はここです。
地域包括支援センターQ&A
- 認知症アクションモーティング2グループ作成マップ・・・・・・・・33
- Web「生き生きノート」を活用しよう・・・・・・・・・・35

ひとりで悩んでいませんか？

体を思うように動かせなくなってきたとき、階段の上り下りやバス停まで歩くことがつらくなってきたとき、名前が思い出せなかったり、食べこぼしに気づかなかったり・・・。年を重ねるにつれ、今までできていたことができなくなると、誰でも不安になります。

特に、高齢になると、いくつかの病気がかさなる場合が多いので、さまざまな症状があらわれやすく、さらに大きな不安につながります。

ちょっとした不調を過剰に心配する必要はありませんが、なかには重大な病気の初期症状が隠れていることもあります。

体の不調や病気について不安に思ったとき、だれかに話すと、自分の気持ちがあちついてきます。ひとりで悩まずに、相談できる人を見つけておくことが大事です。



6 次年度の取組方針の検討

6-1 検討部会の開催

「検討部会」については、介護と医療の連携を進めるための具体的な方策を検討する作戦本部として、また職種・協議会間の情報交換の場として今後も継続的に開催することとする。

その内容については、今年度を実施した「地域住民への普及啓発」をもって在宅医療・介護連携推進事業に示された8つの取組が日野市において全て実施されたことを踏まえて、これまで通り個別の取組の計画・実行や評価・改善を進めるだけでなく、事業全体の再編の検討にも取り組むことを想定する。

<検討部会全体の進め方（案）>

- 年4回開催する（予定）
- 主に勉強会と地域住民への普及啓発について改善・実行を図る
- これとあわせて以下の通り事業全体の再編の検討を進める
 - 一 年度の前半では、在宅医療・介護連携推進事業の手引き ver.2などを参照しながらこれまでの取組の再点検を行う
 - 一 年度の後半では、別途進められる「日野市在宅療養体制構築のための基本方針」の検討と並行して連携の目指すべき姿と課題の抽出を行い、計画・実行・評価・改善のサイクルの構築を図る

6-2 多職種協働による連携推進勉強会・研修会の開催

「連携推進勉強会」については、日野市の介護と医療の関係者の「顔の見える関係づくり」の場として（第1段階勉強会）、また具体的な症例検討等を通じた多職種協働のイメージ共有や具体的な経験を積み上げる場として（第2段階勉強会）を今後も継続的に開催することとする。

勉強会については、第1段階及び第2段階の基本形ができあがっていることから、自律的な開催に向けた持ち込み企画の募集・実行やこれまでとは異なる形式の勉強会の試行についても適宜検討を行うことも想定する。

<勉強会・研修会の進め方（案）>

- 年4回開催する（予定）
- 全4回の内訳は、第1段階の勉強会と第2段階の勉強会を年度の前半と後半に各1回開催することを基本に、検討部会の中で最終調整を図る
- 第2段階のコンテンツは末期がん／看取りと認知症の2症例の検討を想定するが、症例の持ち込みや新しい形式の勉強会の要望※などに柔軟に対応することとする

※現在第2段階で実施している「実際の連携をスムーズに進めるための模擬症例の検討」は介護職で最もニーズが多い一方、医療職では最もニーズが少ない。医療職で最もニーズが多いのは「より良い連携の仕組みをつくるための話し合い」だが、これは介護職では最もニーズが少ない（第4回勉強会後のアンケートより）

6-3 地域住民への普及啓発の実施

「地域住民への普及啓発」として今年度に初めて開催した市民啓発の取組については、継続していくことでより多くの市民に在宅という選択肢があることを伝えることとする。

＜地域住民への普及啓発の進め方（案）＞

- 今年度の内容について検討部会で効果検証を行い、必要に応じた見直し・改善をした上で、次年度も実施していく
- あわせて今年度に対応できなかった以下の項目について検討を行う
 - ー身近な支援者がいない等の理由で「最期まで自宅で暮らし続けたいが難しいと思う」方に向けた情報提供のあり方を検討
 - ーイベント以外でより多くの市民に情報を伝える方法（または当日配付資料の改善など）を検討

6-4 事業の実施体制

平成30年度より医療と介護の有機的なネットワークを構築し在宅療養をコーディネートする部署として、「在宅療養支援課」が新設される予定である。そのため、「検討部会」「多職種協働による連携勉強会・研修会」「地域住民への普及啓発」を含む在宅医療・介護連携推進事業については、次年度より所管課を高齢福祉課から在宅療養支援課に移管し、在宅療養環境の整備の充実を図っていくこととする。

なお、高齢福祉課も引き続き、介護の視点から在宅高齢者の療養環境の整備に関わっていくこととする。

6-5 国、東京都・他自治体の取組等の調査

「国、東京都・他自治体の取組等の調査」については、検討部会の検討内容にあわせて、事業全体の再編や、勉強会や地域住民への普及啓発の改善に関する参考事例を適宜収集・紹介することとする。

特に事業全体の再編に関連する取組等については、連携の目指すべき姿や新たに取り組むべき事項を検討する材料として、国の制度や日野市と似た状況にある自治体のビジョンなど上流の考え方を中心に調査を行うことを想定する。